

桑名・熊野・鳥羽の3つの地域モデル検討会の取組状況

(取組概要、課題、進捗状況)

研究会等 名称	平成25年度		
	取組概要	課題	進捗状況
桑名プロジェクト 検討会	<p>・桑名市の新興住宅団地「陽だまりの丘」をフィールドに、検討会を開催し、委員の意見、住民アンケートの結果から、地域の課題は、「交通環境・移動手段」、「地域の医療体制・子育て環境」、「光熱費の低減」をテーマとして、桑名市のモデル提案のとりまとめを実施。</p> <p>(平成25年7月1日に第2回検討会開催)</p>	<p>・モデル提案に基づき分科会（交通サービス事業、医療・子育て情報事業、住宅等へのエネルギーマネジメントシステム）を設置するとともに、この中で地域住民ニーズに合ったモデル提案を実現するため詳細な計画の検討、持続可能な事業運営の仕組みについて、議論を深めることが必要。</p>	<p>・分科会の設置に向け、地元関係者とのヒアリングを実施中。</p> <p>・桑名市の公用車（EV）や貸与を受ける車両（EV等）を活用し、非常時の電源供給の仕組みの構築やEVのシェア事業の検討を行う予定。</p> <p>・住居等へのエネルギーマネジメントシステムの導入について、公社保有地の活用について桑名市と連携中。</p>

研究会等 名称	平成25年度		
	取組概要	課題	進捗状況
熊野プロジェクト 検討会	<p>・熊野市紀和町をフィールドに、地域産業の振興、雇用の場の創出などの課題に対応するため、EV車両の観光周遊手段や非常時の活用、木質バイオマスの地産地消システムなど環境・エネルギー技術を活用したモデル提案を地元関係者と協議・取組の実施。(平成25年6月27日に第4回検討会開催。)</p>	<p>・木質バイオマスの地産地消システムについては、平成24年度は農水省補助事業により、木質バイオマス資源に関する需要量調査及び供給能力調査、木質燃料の地産地消システム構築シナリオ検討などの調査を行い、木質バイオマスの需要側での採算性が見込めることが判明したため、今後、木質バイオマスの安定的な供給体制及び需要側の拡大など持続可能な事業運営の仕組みについて、分科会で議論を深めることが必要。</p> <p>・EV車両を観光周遊手段及び非常時の電源供給手段として利活用とするモデル提案内容であるが、具体的な利活用計画の検討の中で、例えば自動車関係企業の参画のもと、移動手段として最適なものが何であるかについて、分科会で議論を深めることが必要。</p>	<p>・平成25年10月15日に第5回検討会を開催し、「未利用木質バイオマスの地産地消型熱利用検討分科会」及び「マイクロ水力発電分科会」の2分科会を設置。</p> <p>・本田技研工業株式会社によるEV(電動車両)による観光用途に利活用する場合の具体的な提案(10月15日)も踏まえて、「EV等(電動車両)の利活用」について、当検討会の中で議論開始。</p> <p>・小型燃料電池を用いた非常用電源の実証試験(平成25年度NEDO補助事業)として、試作品を用いた市場化ニーズ調査についての検討を開始。</p>

研究会等名称	平成25年度		
	取組概要	課題	進捗状況
スマートアイランドプロジェクト検討会	<p>・鳥羽市の離島（答志島）をフィールドに、安全・安心や観光振興などの課題に対応するため、島内の周遊性向上を図る超小型電動車両や災害時に利用可能な太陽光発電の導入など環境・エネルギー技術を活用したモデル提案を地元関係者と協議・取組の実施。（平成25年6月3日に検討会設立）</p>	<p>・超小型電動モビリティによる島内交通検討については、24年度に行った社会実証で好評を得たが、実施主体、初期投資費用の資金調達、施設運用管理などの持続可能な事業運営の仕組みについて分科会で議論を深めることが必要。</p> <p>・漁協施設への太陽光発電システムの導入については運営管理などの議論を進めるとともに、地域住民へのメリットをどのようにもたらせるかの議論が必要。また塩害対策については沿岸地域のモデル事業として国の資金を活用しながら、どう展開していくか関係者と検討することが必要。</p> <p>・漂着流木などのバイオマス資源の活用による循環型社会の実現に向けた分科会の設置については、鳥羽市のゴミ処理計画等との摺り合わせが必要。</p> <p>・観光振興の観点から、モデル提案以外の可能性についても検討が必要。</p>	<p>・鳥羽磯部漁業協同組合と事前打合せ（10月17日）を実施。</p> <p>漁港施設での太陽光発電や、それを活用した非常電源の確保などについて、中小企業試作シンジケートが参画した分科会を立ち上げる予定。</p> <p>・10月13日に事業開始した新たな観光集客施設の検討を行う「答志島ブルーフィールド事業」と連携し、シート型太陽光発電を照明などの電源として活用する自然を生かした新たな観光施設に関する検討を行う。</p> <p>・小型燃料電池を用いた非常用電源の実証試験（平成25年度NEDO補助事業）として、試作品を用いた市場化ニーズ調査についての検討を開始。</p> <p>・水産業のスマート化や新たな6次産業の展開などのイノベーション創出について三重大学との連携を協議する予定。</p>